

(様式第4号)

調査研究完了報告書

調査研究課題	増加する若年者の子宮頸癌とヒトパピローマウイルス（HPV）の感染実態に関する調査研究
研究期間	平成19年度～21年度（3年間）
目的	若年者における HPV 感染の実態を明らかにし、子宮頸がんの増加との関連について検討する。
得られた成果	<ol style="list-style-type: none">1 地域の一次医療機関受診者における high-risk 型 HPV の感染状況を把握することができた。水戸市を中心とした県央地域若年女性（39 歳未満）の 4,358 人の HPV-DNA の陽性率は、14.3%であった。2 HPV-DNA が検出された症例について、先端的な遺伝子型多種類同時検出法を使って遺伝子型解析を行い、遺伝子型の頻度を明らかにした。その結果、23 の遺伝子型が検出され、52 型、58 型、16 型の上位 3 種で全体の 40%を占めた。3 高度前がん病変以上の症例において検出された遺伝子型は、16 型、18 型、31 型、33 型、51 型、58 型及び 52 型の 7 つの遺伝子型であり、発がんの危険度は遺伝子型によって異なることを明らかにした。発がんの危険度が特に高いと言われる 16 型及び 18 型の高度前がん病変以上の症例に占める割合は、全体の 59.1%であった。4 混合遺伝子型感染例の割合は、若い年齢層ほど高いことがわかった。また、3 に示した 16 型等 7 つの遺伝子型のうち、1 つ以上を含む混合遺伝子型の症例では、持続感染率の高いことがわかった。
成果の普及・活用方法	<ol style="list-style-type: none">1 子宮頸がん対策の参考となるよう、主管課に情報を提供する。2 子宮頸がんの検診及び診療への遺伝子検査導入を検討する際、並びに HPV ワクチン接種の際の資料となるよう、県産婦人科医会等に対して情報を提供する。3 学会等で口演及び誌上発表し、広く研究成果の普及に努める。
残された課題・問題点	